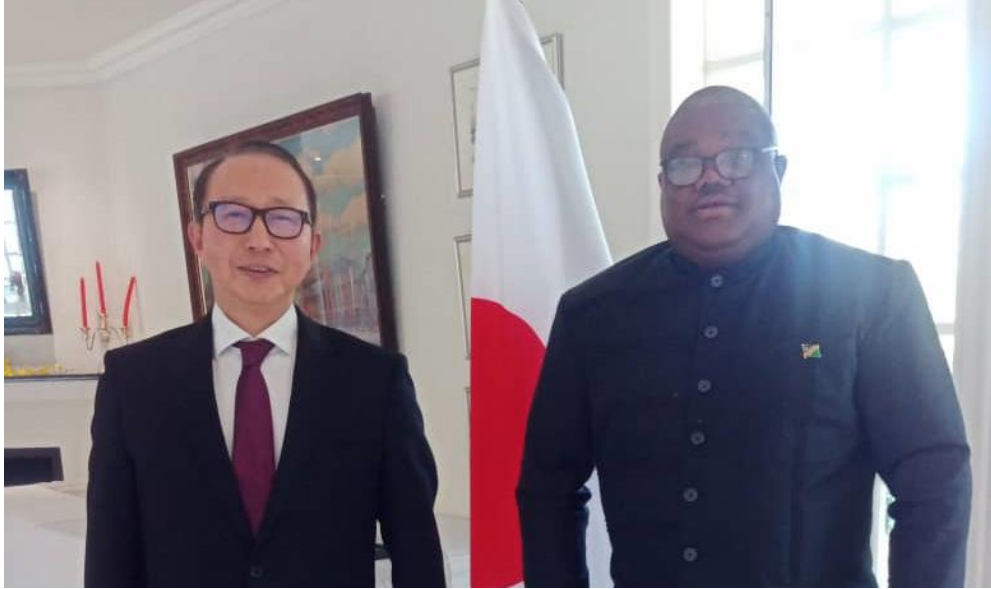




令和5年7月7日、西牧大使はウアピングネ・ウィントフック市長を大使公邸に招き、意見交換を実施しました。

ウアピングネ市長は、ナミビアの首都であり、活気ある国際都市であるウィントフック市の運営に伴う大きな任務について説明しました。市長によると、ウィントフック市はナミビアで最も人口の多い都市であり、主要なビジネス活動が行われています。そのため、雇用機会を求めて人々が首都に集まり、農村部から都市部への移動が大きな要因となり成長を続けていますが、そのために大きな住宅問題が発生し、公衆衛生や教育施設などの基本的な設備に大きな負担がかかるだけでなく、急増するインフォーマルな（不法住民の）居住地への水、衛生、電力サービスの提供というインフラへの課題も生じています。

西牧大使は、草の根・人間の安全保障無償資金協力（GGP）プログラムや、JICAが派遣する青年海外協力隊の活動など、ナミビアに対する日本の政府開発援助（ODA）について説明を行いました。特にウィントフック市は、日本からの長年にわたる様々なプロジェクトを通じて、保健、教育、さらには都市農業の分野でも数多くの大規模なプロジェクトの支援を受けてきました。

ウアピングネ市長は、大使館を通じた日本からの支援に感謝の意を表し、両者は日本とナミビアの関係強化、特に様々な分野での開発協力について意見交換を実施しました。